

令和6年度玉島警察署管内学校警察連絡協議会総会

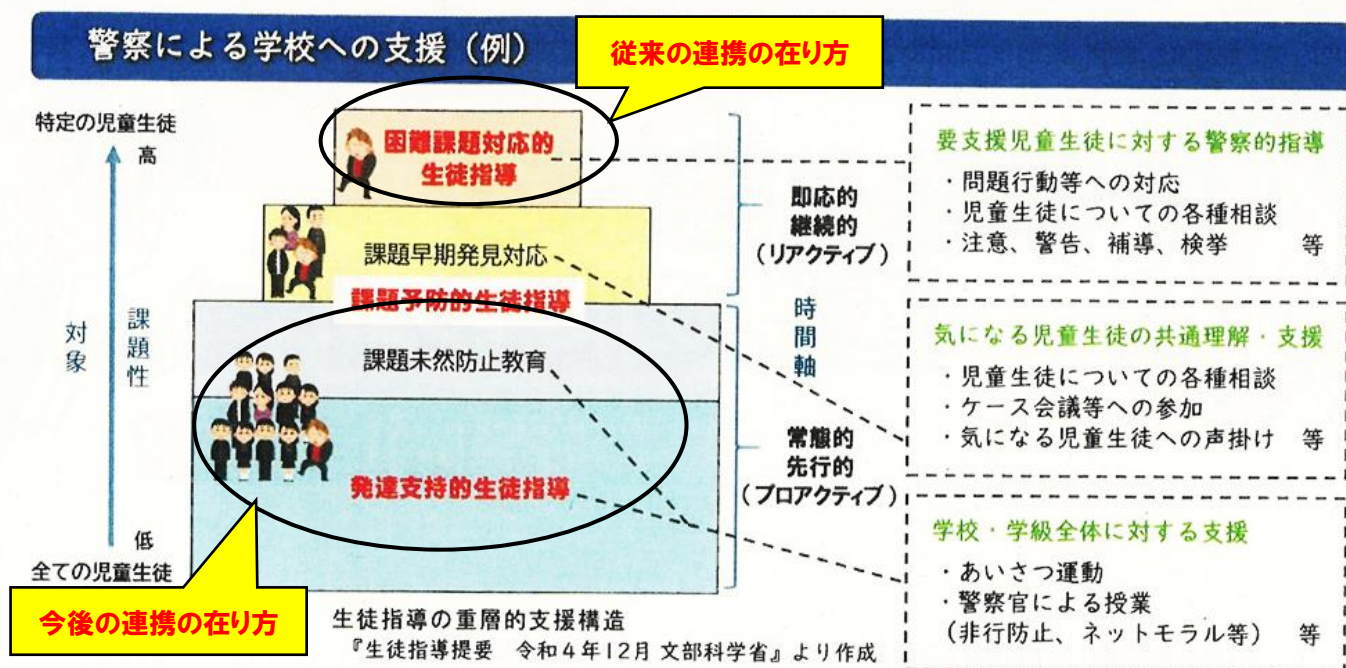
7月25日（木）に標記の総会が玉島警察署で開催され、浅口市内の小中学校長と生徒指導担当者、青少年育成センター職員等が参加しました。詳細は割愛しますが、総会では事業報告と事業計画等が審議され、滞りなく承認されました。

資料の中に岡山県警察から出された「学校と警察の連携のヒント」という冊子の中に、お知らせし再確認しておきたい内容がありましたのでポイントを掲載します。

近年では子どもたちの問題行動が多様化し、学校だけでは解決できないことも多くなり、解決のために警察やその他関係諸団体と連携して取り組まざるを得ない状況になっています。その際の基本的な考え方が示されていますのでご確認ください。

これまでの学校と警察の関係は、図の一番上「**困難課題対応的生徒指導**」の部分が行われていたように思いますが、この図によるとあいさつ運動や警察による授業など、一番下の「**発達支持的生徒指導**」も警察が担っていくとあります。

問題が大きくなる前に、または問題の発生を抑えるために、普段から連携していく必要があるということです。



また、**警察に相談又は通報すべきいじめの事例**として下の表が示されています。

◎警察に相談又は通報すべきいじめの事例

参考：令和4年 警察庁「少年からのシグナル」

文部科学省 令和5年2月7日「いじめ問題への的確な対応に向けた警察との連携等の徹底について（通知）」より

該当し得る犯罪	学校で起こり得る事案の例
暴行	○ ゲームや悪ふざけと称して、繰り返し同級生を殴ったり、蹴ったりする。 ○ 無理やりズボンを脱がす。
傷害	○ 感情を抑えきれずに、ハサミやカッター等の刃物で同級生を切りつけてけがをさせる。
※ 強制わいせつ	○ 断れば危害を加えると脅し、性器や胸・お尻を触る。
恐喝	○ 断れば危害を加えると脅し、現金を巻き上げる。 ○ 断れば危害を加えると脅し、オンラインゲームのアイテムを購入させる。

窃盗	○ 靴や体操服、教科書等の所持品を盗む。 ○ 財布から現金を盗む。
器物損壊等	○ 自転車を壊す。 ○ 制服をカッターで切り裂く。
強要	○ 度胸試しやゲームと称して、無理やり危険な行為や苦痛に感じる行為をさせる。
脅迫	○ 本人の裸などが写った写真・動画をインターネット上で拡散すると脅す。
名誉毀損、侮辱	○ 特定の人物を誹謗中傷するため、インターネット上に実名をあげて、身体的特徴を指摘し、気持ち悪い、不細工などと悪口を書く。
自殺関与	○ 同級生に対して「死ね」と言ってそそのかし、その同級生が自殺を決意して自殺した。
児童ポルノ提供等	○ 同級生に対して、スマートフォンで自身の性器や下着姿などの写真・動画を撮影して送るよう指示し、自己のスマートフォンに送らせる。 ○ 同級生の裸の写真・動画を友達1人に送信して提供する。 ○ 同級生の裸の写真・動画をSNS上のグループに送信して多数の者に提供する。 ○ 友達から送られてきた児童ポルノの写真・動画を、性的好奇心を満たす目的でスマートフォン等に保存している。
私事性的画像記録提供	○ 元交際相手と別れた腹いせに性的な写真・動画をインターネット上に公表する。

※「強制わいせつ」罪は令和5年7月13日より「不同意わいせつ」罪となっている。

警察の基本的な考えは「**教育上の配慮等の観点から、一義的には教育現場における対応を尊重しつつも、犯罪行為がある場合には、被害児童・生徒や保護者の意向、学校における対応状況等を踏まえながら、警察として必要な対応をとる**」となっています。上記案件は**警察に相談又は通報すべき**事例なので、速やかに警察へ通報することが求められています。

♡部活を通して心が豊かになりました♡

指導している中学校の女子バレー部最後の大会後、「バレーを通して学んだことを後輩たちに話して欲しい」と顧問が3年生に言いました。そして、キャプテンが発したのこんな素敵な言葉でした。

『入部したばかりの自分は本当にだめな人間だったけど、3年間の部活を通して心が豊かになりました。』また、他の4人の部員たちも、目標の県大会出場を果たしたにも拘わらず、その事には一切触

れず、「**他者のために自分ができることをしようとするようになりました。**」「**他者の心を理解しようとするようになりました。**」と語りました。

集団で行うバレーボールは、「関係性」「協調性」「寛容性」などの心が身につく素晴らしい競技で、3年間の部活を通してその心をしっかりと身に付けている3年生を目の当たりにし、感動し誇らしく感じました。特に「豊かな心」という言葉は、多くの小中学校の教育目標にも掲げられている価値ある言葉です。自分ではそれを目指して指導して来たつもりでしたが、実際にその言葉を生徒の口から聞くと、『自分の指導は間違っていなかった』と安堵し、改めてスポーツ本来の意義がなんであるかを再確認出来ました。

さて、パリ五輪では世界のトップアスリートがそのパフォーマンスを競い合いました。選手が目指すのは金メダルです。心豊かになるために競技しているようには見えません。

それでは、心の育成を目的とした部活動の延長上に、オリンピックはないのでしょうか。答えはアスリートたちが対戦後に相手を称える姿や、インタビューの中にあります。一部感情的になる選手もいますが、みんな「豊かな心」を持ち合わせているのが見てとれるのです。血の滲むような努力の傍らには、それを支えたたくさんの「愛」があったからです。

スポーツを通して学ぶことは、中学生もオリンピックも変わらないのです。批判にさらされるべきは、勝利のためと称して行う選手を無視した指導の在り方なのです。

指導者が意識すべきは「楽しむ」こと！「勝利」でなく「愛」を与えようとする事！

